



SHIKA-CHU IB Journey

鹿追中学校国際バカロレア通信



鹿追町立鹿追中学校
IBCO 奥平 和也
2026.1.23
Vol.42

霞ヶ関記者会見報告

ご無沙汰してしましましたが、新年初のIB通信です。鹿追町の皆様、この通信をお読みいただいている皆様、今年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

本号では冬休み中の出来事について書きたいと思います。

去る1月13日、私ちょっと霞ヶ関まで行ってきました。

昨年12月から地域おこし協力隊として、本町教育委員会のIB広報をお手伝いいただいている、元朝日新聞記者の錦光山雅子（きんこうざん まさこ）さん全面協力のもと、町内のコーディ

ネーター3名で文部科学省（MEXT）を訪問し、文科省付きの記者団に向けてIB認定についての会見を行ってきました。

産みの苦しみはありましたが、錦光山さんのサポートのおかげで、**今回の認定が意味することについて、かなり明確に言語化することができました。**

その甲斐もあって、本町の取組とその可能性について、記者団の方々からは想定以上に高い関心と好意的な反応をいただき、現在、各種メディアから道内ののみならず、日本全国に向けて報道されているところです。しかし一教諭の身分でそんなところを訪れる日が来るとは…緊張しました。あとはお昼時、霞が関ビルの丸亀製麺に並ぶサラリーマンの長蛇の列には価値観を搖さぶられました（笑）

話を戻しましょう。なぜ、人口約5,000人の鹿追町の取り組みが、これほどまでに全国の注目と期待を集めるのでしょうか？

理由は様々ありますが特に大きなものとしては、学区制の公立校において、質の高い探究型教育を「町単位」で実装できたということが正式に認められた**《全国初》の事例である**というところにあります。これはIBという枠を取り扱ったとしても、も

しかしたら全国初か、それに近い状況にあるのではないかと思います。

それくらい、学区制の公立校において探究を実装するには（要するに、現行の指導要領を「ちゃんと」やるには）高い障壁があります。その根拠は最後に添付する資料に書かせていただいております。

記者会見では、本校の生徒たちのことはもちろん、私たち教員の「探究実装に向けた学びと変化の過程」についても具体的に発信しました。

そして「鹿追の中学校にどうやって探究を実装するか」から「公立の学校にどうやって探究を実装するか」へと抽象化し、本校の挑戦が「特別な学校のエリート教育」ではなく、「学校と自治体の覚悟さえあれば、手法次第で学区制の公立校でも、質の高い探究型教育の実現は可能である」ということを強調させていただきました。その点が記者団の皆さんにも刺さったのでは無いかと考えます。

鹿追町の挑戦が、日本の教育を変える一歩に？？

野球界で有名な「160キロの壁」のお話しをご存知でしょうか。

ほんの少し前まで、日本人にとって球速160キロは誰も超えることのできない壁だと言われていました。

ところが！2010年に佐藤由規選手が日本人で初めて161キロを記録してその壁を壊すと、日本の野球界は一変します。

その後、ご存知大谷翔平選手が165キロを叩き出し、佐々木朗希投手が当たり前のように160キロを連発するようになります。そして現在では、彼らに続くように160キロを超える投手が毎年のように現れています。

「不可能だ」と言われていたところから、なぜ？？

もちろん日本人の体格が突然変化したわけではありません。

一番の理由は、「160キロは出せる数字なのだ」という実例の出現により、みんなの頭の中にある**「無理だという思い込み」が消えたから**であると言われています。

一人が壁を壊すと、それを見ていた周りの人たちの基準（当たり前）がグッと上がります。

「あの人にできるなら、自分にもできるはずだ」という強い確信が、それまで眠っていた力を引き出すのです。

この現象はもちろん、野球界に限ったものではありません。

先述の通り、新しい指導要領に変わってから早5年、現在全国の公立校と自治体が「探究的な学びが機能させられない」という共通の高い壁にぶち当たっています。3年前の私たちも例に漏れず同じ状況にありました。

最早、「こんな壁、私立でもなきゃ絶対越えられないだろ。」そんな諦めのムードが日本中の現場に広がっています。

そこに、「あの壁を、実際に越えた自治体が出たらしいぞ！」というニュースが流れる。

これは「160キロの壁」と同じく、**「無理だという思い込み」を消さる。**そんな実例となり得るはずです。その点で、今回の私たちの認定は**日本の公教育全体にとって大きな価値を持っている**とも言えるのではないでしょうか。

「あの町にできるなら、自分たちにもできるはずだ！」という強い確信が、これまで眠っていた力を引き出し、壁を越える学校がたくさん現れていく。

そうなっていったら、その起爆剤に私たちがなれたのだとしたら、とても素敵ですよね！

ただしそれは同時にこの先も、**この町の行末は周囲から期待を込めて見つめられていく**ということでもあります。ちょっとプレッシャーですね。しかしそれも、みんなで力に変えて進みたいですね。

以上、そんな価値について伝えさせていただいた文科省での記者会見でしたが、当日は会見時間の制約からかなり焦点を絞ってお話ししましたし、テレビや新聞の記事ではそこから更に内容が

要約されてしましますので、具体的な中身について気になつていい
る方もいらっしゃることと思います。

そこで！ **今回実際に会見で使用した記者団への事前配布資料**
と当日のプレゼン資料を共有させていただきます（記者会見の模
様をおさめた動画もありますが、こちらは個別に対応しますので
ご興味があればご連絡ください）。

年末年始を献上して捻り出された汗と涙の結晶であります
(笑)。よろしければお時間が許す時にご覧いただき、本町が目
指す子どもたちの学びについて更に理解を深めていただければ幸
甚です。

【記者会見関係資料リンク】

- ①2025.1.13 文科省記者会見プレゼン用スライド .pdf**
- ②事前配布資料：【北海道鹿追町】全国初 町内全中学が国際バ
カロレアの認定校に.pdf**
- ③当日の台本**
- ④教育新聞記事**

最後までご覧いただき、ありがとうございました。

バックナンバー2024	概要
<u>鹿中IB通信NO.1</u> ↑クリックするとアクセスできます。	この通信の趣旨や国際バカロレアとは何か？について書いています。
<u>鹿中IB通信NO.2</u>	年度当初に行った生徒向けのIBオリエンテーションについて書いています。当日の動画や資料も見られます。
<u>鹿中IB通信NO.3</u>	こちらは保護者向けのIBオリエンテーションと、同日行われた参観授業（国語）をIB視点で解説しています。
<u>鹿中IB通信NO.4</u>	参観授業紹介第二弾です。理科の授業の内容を《概念》と絡めて書いています。
<u>鹿中IB通信NO.5</u>	参観授業紹介ラストです。社会と保健体育の授業の内容から《IBで知識の定着にかける時間が減る問題》に対する工夫について紹介しています。
<u>鹿中IB通信NO.6</u>	IB教育の大きな柱であるATLスキルと10の学習者像とはどういったものかについて、道徳の授業実践を元に解説しています。

<p><u>鹿中IB通信 NO,7</u></p>	<p>十勝毎日新聞の記事になったというお話と、1学年の Unit1 総括的評価課題の概要一覧を紹介しています。</p>
<p><u>鹿中IB通信 NO,8</u></p>	<p>子どもたちが「総括的評価課題」に取り組む様子の紹介と、2学年の Unit1 総括的評価課題の概要一覧を紹介しています。</p>
<p><u>鹿中IB通信 NO,9</u></p>	<p>「SA」「CP」についての説明の前段としてのお話と、3学年の Unit1 総括的評価課題の概要一覧を紹介しています。</p>
<p><u>鹿中IB通信 NO,10</u></p>	<p>「SA」についての具体的な説明や生徒たちの夏休みの宿題について書いています。</p>
<p><u>鹿中IB通信 NO,11</u></p>	<p>「コンサルタント訪問」についての説明や面談に向けての生徒や保護者のみなさまとのやりとりについて書いています。</p>
<p><u>鹿中IB通信 NO,12</u></p>	<p>「コンサルタント訪問」の実際の中身と主に生徒たちの面談での応答について紹介しています。</p>
<p><u>鹿中IB通信 NO,13</u></p>	<p>「文化祭と日常の学びの繋がり」について書いています。《前編》</p>
<p><u>鹿中IB通信 NO,14</u></p>	<p>「文化祭と日常の学びの繋がり」について書いています。《後編》</p>

<u>鹿中IB通信NO,15</u>	「コミュニティプロジェクト」についての説明と発表会の告知をしています。
<u>鹿中IB通信NO,16</u>	2学年の総合的な学習の時間「未来への提案」の内容と目的について紹介しています。
<u>鹿中IB通信NO,17</u>	保護者懇談会の中身と生徒の総括的評価課題の成果物について紹介しています。
<u>鹿中IB通信NO,18</u>	2学年の総合的な学習の時間「自分探究プロジェクト」の内容と目的について紹介しています。
<u>鹿中IB通信NO,19</u>	2学年の総合的な学習の時間「未来への提案」の発表会のお知らせをしています。
<u>鹿中IB通信NO,20</u>	「未来への提案」の発表会の動画と、「総合的な学習の時間と各教科学びの繋がり」について書いています。
<u>鹿中IB通信NO,21</u>	「自分探究プロジェクト」の実践のひとつについてのご紹介と関係するイベントの告知をしています。
<u>鹿中IB通信NO,22</u>	IBに関するPTA保護者のみなさまとの座談会の模様についてご紹介をしています。
<u>鹿中IB通信NO,23</u>	コンサルティング終了と認定に関しての取組について書いています。

<u>鹿中IB通信NO,24</u>	実際に鹿追中学校が認定されたらどうなるのかについて書いています。
------------------------------------	----------------------------------

バックナンバー2025	概要
<u>鹿中IB通信NO,25</u>	この通信の主旨や既習事項のリサイクルについて書いています。
<u>鹿中IB通信NO,26</u>	2025年度のIB概要説明（生徒向け）の模様について書いています。当日の資料や動画もご覧いただけます。
<u>鹿中IB通信NO,27</u>	本校生徒の活躍の一コマと、6月から始動する総合的な学習の時間「自分探究プロジェクト」と「コミュニティプロジェクト」について書いています。
<u>鹿中IB通信NO,28</u>	「体育祭」の改革と、修学旅行発表会のお知らせについて書いています。
<u>鹿中IB通信NO,29</u>	2025年度Unit1の各教科総括的評価課題の概要について紹介しています。
<u>鹿中IB通信NO,30</u>	「目指す生徒像」について書いています。
<u>鹿中IB通信NO,31</u>	「瓜幕中学校の視察」について書いています。

<u>鹿中IB通信NO,32</u>	IBの保護者向けワークショップのご案内について書いています。
<u>鹿中IB通信NO,33</u>	日々の取組の様子について、写真でダイジェストにお届けしています。
<u>鹿中IB通信NO,34</u>	日々の取組の様子について、写真でダイジェスト第二弾です。
<u>鹿中IB通信NO,35</u>	授業の中で探究のサイクルを実践していくことのメリットの一つについて書いています。
<u>鹿中IB通信NO,36</u>	鹿追町立図書館でのIBの取組と探究の町として発展していくためのキーポイントについて書いています。
<u>鹿中IB通信NO,37</u>	探究の町として発展していくためのキーポイントとして都留文科大学との交流について。そしてIB教育実習生の視点から見た本校の様子について書いています。
<u>鹿中IB通信NO,38</u>	本校生徒のクラウドファンディングへの挑戦について、また多方面に渡る生徒の活躍ぶりについて紹介しています。
<u>鹿中IB通信NO,39</u>	コミュニティプロジェクト(CP)報告会のご案内と、各グループのプロジェクトタイトルについて紹介しています。

<u>鹿中IB通信NO.40</u>	全体懇談会の中身と、1-2学年の保護者の皆様にご覧いただいたIBの学びを経た生徒の姿について書いています。
<u>鹿中IB通信NO.41</u>	本校の正式なIB認定のご報告と、IB導入が決まつから3年間の歩みについて書いています。